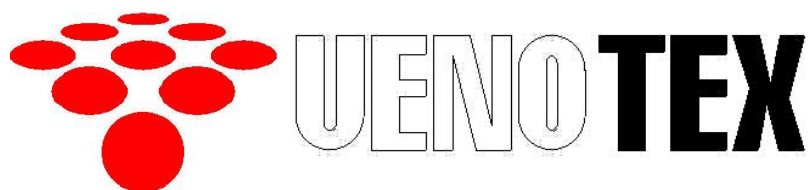


ウエノテックス株式会社

環境活動レポート

2014年度
(対象期間2013.10.1～2014.9.30)



環境活動レポート

ウエノテックス株式会社

I. 組織の概要

(1) 事業所名及び代表者名

ウエノテックス株式会社
代表取締役 上野 光陽

(2) 所在地(本社・第1工場)

〒949-3298 新潟県上越市柿崎区柿崎 7396-10
TEL: (025) 536-2266 FAX: (025) 536-9836

(第2工場)

〒949-3298 新潟県上越市柿崎区 7325
TEL: (025) 536-9869 FAX: (025) 536-2759

営業所所在地

関東営業所

〒364-0013 埼玉県北本市中丸4-130
TEL: 048-590-1481 FAX: 048-590-1481

鹿嶋営業所

〒314-0031 茨城県鹿嶋市宮中2333-91
TEL: 0299-82-6769 FAX: 0299-82-6769

北陸営業所

〒923-0965 石川県小松市串町己35-2
TEL: 090-7088-4721

関西営業所

〒532-0033 大阪府大阪市淀川区新高6丁目14-7-306
TEL: 080-6680-3051

(3) 環境管理責任者及び連絡先

環境管理責任者: 総務部 松村光雄

EA21事務局 : 営業技術本部 中村誠

連絡先: 〒949-3298 新潟県上越市柿崎区柿崎 7396-10

TEL: (025) 536-2266 FAX: (025) 536-9836

E-mail: daihyo1@uenotex.co.jp

(4) 事業の主な内容

各種産業機器・環境機器の設計・開発、製造及びサービス提供

Ⅱ. 対象範囲(認証・登録範囲)

(1) 組織

対象事業所 : 本社、第1工場、第2工場、関東営業所、関西営業所

認証対象外 : 鹿嶋営業所、北陸営業所（業務委託のため対象外）

(2) 活動

対象事業所の全活動とする

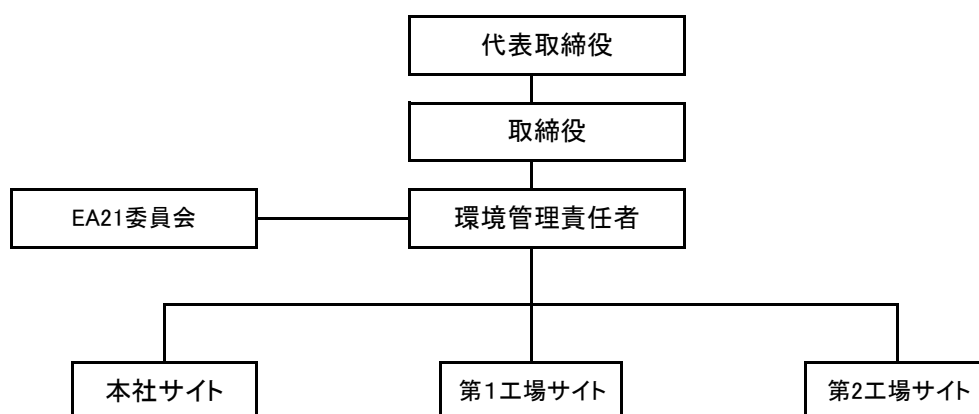
(3) 事業規模

	単位	2012年度	2013年度	2014年度
		(2011.10.1～2012.9.30)	(2012.10.1～2013.9.30)	(2013.10.1～2014.9.30)
製品生産量(注1)	t	332	199	254
資本金	千円	55,000	75,000	75,000
売上高(注2)	%	114.0	113.0	117.0
従業員	人	99	99	98
床面積	m ²	8,390	8,390	8,390

(注1) 製品生産量は、主要製品である破砕機の重量換算値とする。

(注2) 売上高は、エコアクション21認証前年度（2005年度）を100%とする。

(4) 環境活動体制



環 境 方 針

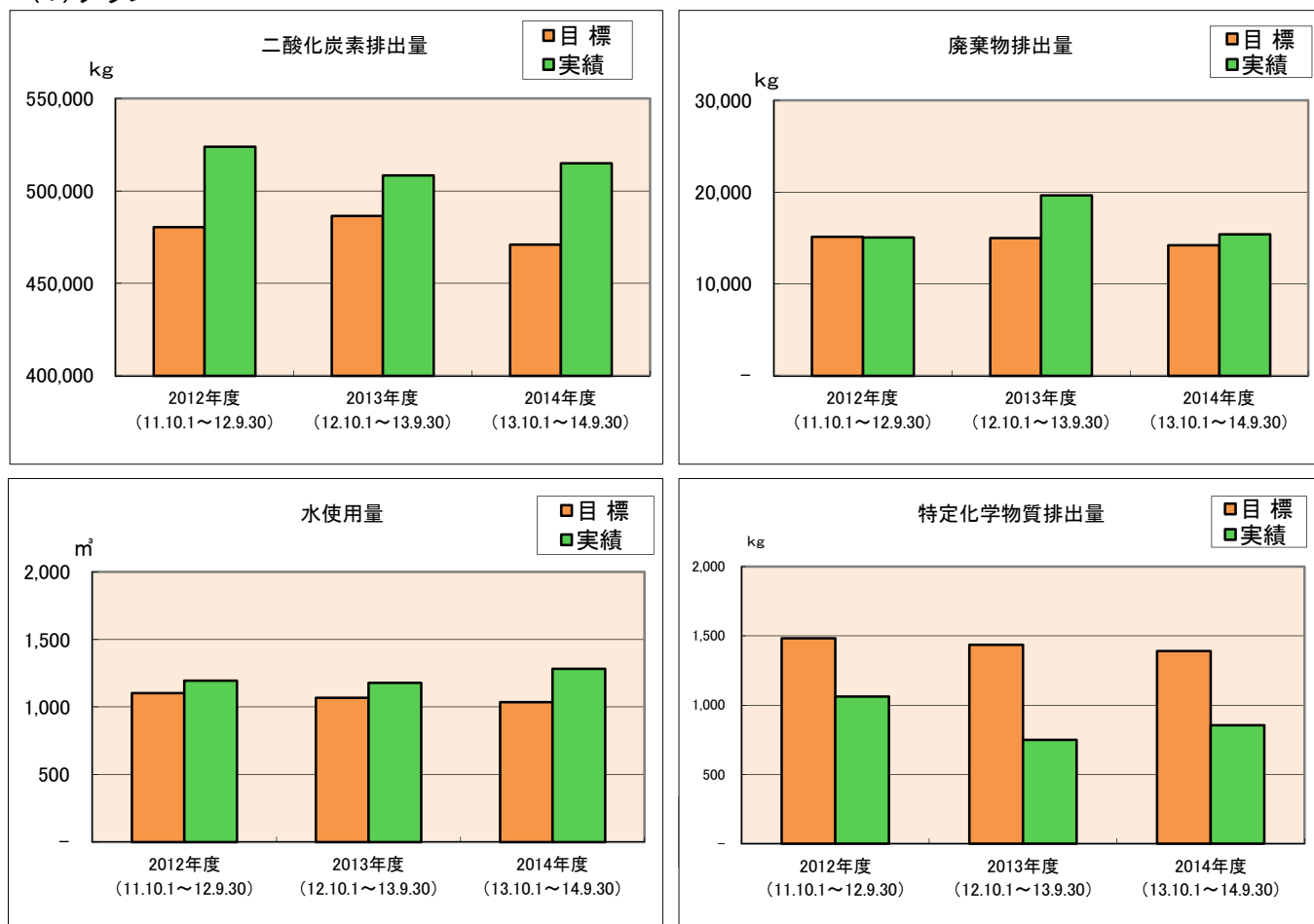
当社は、環境関連製品の開発を積極的に推進して社会に貢献するとともに事業活動における環境負荷を継続的に改善し、地域住民・顧客及び社員に信頼される会社であり続けるために、以下のことを行う。

1. 環境負荷の実態を調査し、環境目標を設定する。
2. 環境目標を達成するための具体的な環境影響を調査し、改善計画を策定し、実施し、成果を検証して、次の活動に繋げる活動を行う。
3. 適用される環境関連法規・条例・規制等を遵守する。
4. 社員の環境意識を高めるために必要な教育訓練を行う。
5. 環境負荷を改善するために、次の事項を重点的に推進する。
 - (1) 二酸化炭素排出量の抑制
 - (2) 廃棄物排出量の削減
 - (3) 水使用量の節減
 - (4) PRTR法制度の特定化学物質排出量の削減

2012. 1. 23
ウエノテックス株式会社
代表取締役 上 野 光 陽

Ⅲ.中期環境目標の実績

(1) グラフ



(2) 詳細データ

環 境 負 荷		2009年度	2012年度 (11.10.1~12.9.30)		2013年度 (12.10.1~13.9.30)		2014年度 (13.10.1~14.9.30)	
		実績	目 標	実 績	目 標	実 績	目 標	実 績
(1)二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	558,527	480,442	523,948	486,461	508,415	470,989	514,907
(2)廃棄物排出量	kg	19,894	15,138	15,072	14,983	19,633	14,202	15,394
(3)水使用量	m ³	1,209	1,103	1,194	1,069	1,179	1,035	1,283
(4)特定化学物質排出量	kg	2,164	1,482	1,063	1,436	749	1,391	855
(5)グリーン購入の推進	%	—	56	64	57	65	58	72
(6)環境機器の出荷台数	%	—	101	114	102	104	103	104

- ※ 2011年度目標値は、2009年度の実績値を基準として毎年度3%削減した数値にしています。
- ※ 2012年度以降の目標値は、2008年度の実績値から12%削減した数値と2011年度の実績値から3%削減した数値の低い方を目標としています。但し、2013年度以降から関東・関西営業所の営業車及びロール紙を環境負荷に加えた事を考慮し、二酸化炭素排出量及び廃棄物排出量の目標値を再設定しています。
- ※ 二酸化炭素排出量の内、購入電力量は実排出係数0.473kg-CO₂/kWh(2010年度の東北電力実排出係数)を用いて算定しています。中期目標の3年間は同係数としています。
- ※ 廃棄物排出量は、水溶性廃油、コピー用紙、可燃物、不燃物の合計としています。廃棄物全量ではありません。
- ※ 二酸化炭素排出量の集計は、灯油、都市ガス、LPGは除いています。

IV. 目標の実績評価

目標達成率(%)=(目標/実績)×100

総合評価 ◎: 目標達成率100%以上

総合評価 △: 目標達成率 90%以上100%未満

総合評価 ×: 目標達成率 90%未満

重点課題	2014年度目標値	2014年度実績	達成率	評価	結果の評価・考察
二酸化炭素 排出量の削減 (kg-CO ₂)	470,989	514,907	91%	△	客先支給の破砕テスト品の処理が多い。 客先に返却することになっているができない事が多い。 社内での新機種開発でのテスト破砕物も多いが、環境設備の出荷が増加し、環境に貢献した。 (環境設備生産量 前年度 199t → 今年度 254t)
廃棄物排出量 の削減 (kg)	14,202	15,394	92%	△	一般不燃物、可燃物は目標をクリアしていて 個々で廃棄物を減らそうと続けてきた活動が 実ってきた。 年度末9月に社内在庫の古い塗料を大量に処 分した為、目標を達成することができなかった。 古い塗料は溜め込まず、こまめに処分する必要 がある。
水使用量の 削減 (m ³)	1,035	1,283	81%	×	洗濯物がまとまってから洗濯機を使用することで 使用回数を減らすルールが定着してきた点は良 い。 トイレの水漏れ故障、客先支給品の水漏れ検査 を行った為、前年より使用量が増加した。 それを除いても3年連続大幅未達なので目標の 見直しをする
特定化学物質 排出量の削減 (kg)	1,391	855	163%	◎	受注製品の塗装を昨年から継続してエコ塗料に 切り替えた事が効果に繋がった。 2009年度～2011年度は特別に客先指定塗料が 多く、その3年間の実績を元にした中期計画目標 は現実との差が大きかった。 2015年度からの中期目標の決め方を見直す必 要がある。
グリーン購入 の推進	58%	72%	124%	◎	グリーン購入の意識が広まり積極的にエコ商品 を購入するようになった。
製品サービス (自社開発環境機 器の出荷台数)	103%	104%	101%	◎	目標は達成したが、実績は2013年度から伸ばす ことが出来なかった。 新機種の開発、既存機種の改良、環境展への 出展を続け新規顧客の獲得に繋げたい。

V. 環境活動計画、取組結果とその評価、次年度の取組内容

(1) 取組結果と評価

環境目標	環境活動計画の内容	取組結果とその評価 (2013.10.1～2014.9.30)	次年度の取組内容
二酸化炭素 排出量の削減	作業工数の削減による電力使用量の抑制	生産事前検討会の実施回数を増やし、事前に無駄な作業工数の削減を図った。	設計改善及び不良品削減の活動を強化し、無駄な作業工数を削減して電力使用量を削減する。
	アイドリングストップ、省エネ運転	エコカー以外のアイドリングストップ及び省エネ運転は、社内への徹底を実施。エコカーはアイドリングストップのものを選択した。	引き続き、省エネ運転の励行を改めて全社員に徹底する。 燃費の良い車から優先的に使用する。
	社用車の省エネ車への切り替え	年間走行距離の多い営業車を本年度4台ハイブリット車に切り替え、効果が高かった。	引き続き、燃費の良い車への切り替えを検討していく。
廃棄物排出量 の削減	一般廃棄物排出量の削減	図面変更を削減する活動が効果として出ている。	引き続き、図面変更の削減をさらに徹底し、コピー用紙の使用量を削減する。
	分別収集、保管管理の徹底	分別表示を維持し、保管管理を確実に実施することによって目標が達成出来た。	引き続き、分別収集を徹底する。
	水溶性廃油排出量の削減	機械の修理を行うことにより、ほぼ目標を達成することが出来た。	劣化しにくく交換サイクルが長い水溶性切削油の使用を検討する。
水使用量の 削減	節水の励行	昨年度より削減しているが、目標を達成出来なかった。	引き続き、節水を励行する。
特定化学物質 排出量の削減	エコ塗料への切り替え	受注製品の塗装を昨年から継続してエコ塗料に切り替えた事が効果に繋がった。	エコ塗料の使用を継続するとともに、さらに推進する。
	塗料使用量の削減	小物部品は、エアレスではなくローラ塗りや刷毛塗りとする事で、塗料の使用量を削減できた。	従来の活動を継続するとともに、一回に使用する塗料を必要最小限とするために必要以上に厚く塗らないで指定膜厚の順守を徹底する。
グリーン購入	文具、事務用品をエコマーク対象商品またはグリーン購入法適合商品に変更	文具、事務用品をエコマーク対象商品またはグリーン購入法適合商品に変更し、昨年度の58%から72%にできた。	引き続き、文具、事務用品をエコマーク対象商品またはグリーン購入法適合商品に切替えていく。
製品サービス	破碎機出荷台数の増加	破碎機の受注が順調であり、昨年度より出荷台数が4%増加した。	引き続き、破碎機の出荷台数を伸ばしていく。

中期計画で全項目一律毎年3%減の目標を設定してきたが、全体的に達成が困難になってきた。
次年度は項目ごとに目標数値を設定する。

従来から活動を継続して実施し、今後も活動を継続する下記項目は上表から削除しました。

- 二酸化炭素排出量の削減
 - ・設備無負荷運転時間の削減
 - ・設備の適正運転
 - ・工場エア漏れ防止
 - ・冷暖房エネルギーの削減
 - ・照明電力の削減
 - ・PC等OA機器の不使用时の省電力化
- 廃棄物排出量の削減
 - ・ペーパーレス化
 - ・両面コピー、裏紙利用
- 水使用量の削減
 - ・水道水出し過ぎの厳禁

VI. 環境関連法規制の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反・訴訟等の有無

(1) 法的義務を受ける環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制
騒音規制法
振動規制法
廃棄物処理法
PRTR法
浄化槽法
消防法
労働安全衛生法
高圧ガス保安法
グリーン購入法
公害防止協定書(上越市)

※環境関連法規等の遵守状況の定期評価の結果、環境法規制の逸脱はありません。
関係当局からの違反等の指摘及び地域からの苦情は過去3年間ありません。

VII. 代表者による全体評価と見直しの結果

(1) 環境方針

現状のままとする。

(2) 環境目標・環境活動計画

二酸化炭素、廃棄物、水、特定化学物質の各項目毎に削減率を検討すること。
破砕機の客先からの処理品は、営業から客先へ返却するように依頼すること。

(3) その他の環境経営システム

環境経営システムは、環境マニュアルを定期的に見直して活動すること。
エコアクション事務局員は、公害防止管理責任者の資格を取得すること。

VIII. その他の取組

(1) 防災訓練の実施

第1製造部・生産管理部・営業技術部 2014/9/1実施

① 消火放水訓練



② 床廃油漏れの訓練



③ 負傷者救助訓練



第2製造部 2014/9/8実施

① 消火放水訓練



② 床廃油漏れの訓練



③ 負傷者救助訓練



(2) 太陽光パネルを設置

第1工場、第2工場の屋根に太陽光パネルを設置した。
(2013年9月設置、2013年10月～運用)

